学生インターンシップによる求職者支援訓練コース企画
～若者目線によるマーケティングの試み～

島根職業訓練支援センター　求職者支援課　**日野山　遼・斎藤　理佳・大天　健一**

1. はじめに

求職者支援訓練は平成23年10月から実施される国の第二のセーフティネットとされ，全国で実施される職業訓練である。

学卒未就職者や自営業の廃業者，雇用保険の給付期間を超えた求職中の方が利用できる。

制度ができて新しい求職者支援訓練は雇用保険を受給しながら受ける公共職業訓練に比べ，認知度が低いため，今後，広く認知度を上げていくことも大きな課題であろう。

また，島根県では若年者の県外への流出や高齢化が進んでおり，求職者支援訓練の受講者の推移を年齢別でみると平成23年度から求職者支援訓練受講生の30歳までの若年者の受講者に占める割合が毎年低下の傾向にある。

これらの状況を鑑み，島根職業訓練支援センター（所長　尾中宏明）では，若者目線から見て魅力的な求職者支援訓練を企画する試みを行うこととした。

今般，地元の学生をインターンシップ生として受け入れて，コース企画に取り組んでいただいた。

価値ある提案も多数含まれており，今後の求職者支援訓練の実施機関の開拓等に生かしていきたいと考えている。ここでは本インターンシップについて取り組んだ内容を中心に紹介することとしたい。

2. インターンシップの企画と参加者募集

本インターンシップは公益財団法人ふるさと島根定住財団が実施する夏季インターンシップに当センターが参加することで実施することとした。

地域の学生に企画業務の流れを体験できる機会を提供するとともに求職者支援訓練の内容の充実をさせていくため，「考えて」「行動し」「発表する」機会をもつことは有意義であると考えた。

公益財団法人ふるさと島根定住財団（ジョブカフェしまね）の「平成25年度しまね学生インターンシップ」に参加してインターンシップの参加学生の募集をした。募集情報は大学のキャリアセンターを通して情報提供，申し込みを行い，ジョブカフェしまねで情報をとりまとめる形で進めた。

５名の定員枠で募集の結果，８名の学生から応募があり，全員を受け入れることとした。

80	島根職業訓練支援センター						
	所在地	松江市東朝日町267				TEL	0852-31-2305
	業務内容	公共職業訓練の実施、求職者支援制度で実施する職業訓練コースの認定、認定コースを実施する民間教育機関への相談助言等					
	募集情報	募集部署	求職者支援課	実習時期	9月2日～6日	実習日数	5日間
		募集人数	5名	募集学年	制限なし	学科/専攻制限等	制限なし
		実習内容	求職者支援訓練コースを若者目線でニーズ調査し、企画書や広報資料を作成します。 評価の高い企画書は民間教育機関に情報提供し、実際に実施するコース募集をします。 1日目　オリエンテーション、目的目標、調査 2日目　ディスカッション、調査継続、プランまとめ 3日目　調査継続・企画仮案の作成・発表 4日目　修正・企画書案のまとめ・広報資料作成 5日目　資料調整、準備、発表、講評				
		求める人物像	目標達成に向けて自ら考え行動できる、組織やチームを大切にできる、チャレンジ精神が旺盛である方				
		特記事項	マスコミの取材が入る場合もあります				

公益財団法人ふるさと島根定住財団ホームページ抜粋
（平成２５年度夏季インターンシップ学生募集）

・島根大学　　　　　　　6名
・鳥取環境大学　　　　　1名
・島根県立大学短期大学部
　　　　　　　　　　　　1名
　参加者合計　　　　　　8名（男女各4名）

求職者支援訓練コースの企画を4名で2チーム（男女各2名）を編成し，取り組むこととした。

3. インターンシップカリキュラム

学生のインターンシップのカリキュラムは課題を提示し，参加者が主体的に調査，検討する内容とした。仮説を設定し，ヒアリングやディスカッションを重ね，企画書にまとめ，最終日に発表をするというものである。

発表に当たって，発表のスケジュール計画・事前説明・段取りの実行など業務に必要な準備をすべて学生が行うこととした。

研修のねらいとして次の3つの項目を設定した。

チームによる企画業務の体験において，ビジネスで求められる次の3つの力を活用する。①主体的に考えまとめる力（考える）②目標に向かってチームで仕事を進める力（行動する）③調査結果をまとめ他者にわかりやすく伝える力（発表する）。経験からの学習を通じ，職業人としての基本的姿勢を習得する。（別紙インターンシップカリキュラム参照）

4. インターンシップ課題

インターンシップでは，次の課題に取り組むこととした。島根職業訓練支援センターにおいて事前調査を行ったデータをもとに課題を準備した。課題について必要な情報は島根職業訓練支援センター職員に質問をしたり，インターネット調査，ヒアリング調査を行って確認をして進めることとした。取り組んだ課題は次のとおり。

(基礎コースチーム課題)

① 簿記やパソコンを中心としたコースが多数であるが，他の分野のコースも必要ではないか。

② 受講者をみると20代から30代の人の割合が減少している。20代から30代までの年代の受講者の割合を増やせないものだろうか。

③ 定員数を充足しないコースもみられるが，もう少し充足率をあげられないだろうか。

(実践コースチーム課題)

① 地域のニーズを探る会議で情報系のコースを実施してほしいという要望がでた。

② 企業ヒアリングをしたところ次のような課題が明らかになった。

・若年者の流出が続き，県内で人材を確保する場がなかなかないためコストをかけて遠方で採用活動をしている

・仕事は順調に伸びているが，プログラミングできる人材が不足しており，多くの仕事を受けられない状況である

・若年者に情報系はキツイなどのイメージがあって，応募者が少ないと予想される

・採用してもなかなか人材が育たない

・新入社員を採用しても教育をする余裕がない（資金的，時間的，人的面で）

③ 島根県・松江市はRubyという言語の開発者の在住地（松江市名誉市民）であり，地域振興でシステム開発等の企業誘致や情報産業振興の動きがある。

④ 受講者確保が難しいことから求職者支援訓練では，情報系コースを実施した実績がない。

5. インターンシップの実施概要

5.1 参加学生への説明内容

求職者支援制度とは，雇用保険を受給できない求職者の方が，職業訓練によるスキルアップを通じて早期就職を目指すための制度で，受講料無料の職業訓練である求職者支援訓練が提供される。この職業訓練は，雇用保険を受給できない求職者の方などを対象として，民間訓練機関が厚生労働省の認定を受けた職業訓練を実施するもので，次のようなコースを設定している。

① 基礎コース：多くの職種に共通する基本的能力を習得するためコース

② 実践コース：特定の職種の職務に必要な実践的能力を一括して習得するためのコース

島根職業訓練支援センターでは，求職者支援訓練のコース企画について，上司から示される課題メモを参照し，課題解決に向けた仕事に取り組むこと。

なお，課題メモで不足する情報は質問や調査によって補完すること。

基礎コースでは30歳までの若年者の受講者を増やすこと，実践コースは情報系のコース（例えばプログラマ養成）のコース企画について調査，検討の上，報告をすることを目標とすること。

5.2 インターンシップ経過

初日にオリエンテーションで課題に対応するプロジェクトチームを２チーム編成した。問題意識の共有化および課題解決に向けての検討をし，インターネット調査などを進めた。

１日目　課題について意見交換

インターネット調査や上司への質問などから明らかになった課題を整理し，ヒアリングの質問などの準備を進める。

２日目　調査結果の整理

松江公共職業安定所（ハローワーク松江），ジョブカフェしまね，求職者支援訓練の実施機関である有限会社くりっく，当センター就職支援アドバイザーおよび情報系指導員にヒアリング調査を実施した。ヒアリング結果および企画の大まかな方向性について，課職員に対して発表を行った。基礎コースについては，職員からのアドバイスにより，企画案を大幅に変更することとなった。インターンシップ生にとっては，企画案が却下されることは初めての経験であり，より実際の仕事に近い，貴重な経験ができたようである。なお，ヒアリングに当たっては，インターンシップ生の名刺を用意し，電話応対・名刺交換等のビジネスマナーにも気を配るようにした。

３日目　ヒアリング調査

ヒアリング調査の結果得られた新たな情報をもとに再度，仮説の検討を行い，企画書にまとめる。また，発表会の段取りや部内説明用の資料の作成に着手する。

４日目　まとめと再検討

ヒアリング結果と企画書の概要報告について上司に説明を行う。

４日目　上司報告

企画内容や当日の発表会の運営について関係部署を回って説明を行う。

４日目　公開発表会の事前説明

企画書や新たな提案などをまとめ所長に説明を行い，発表会実施に向けた承認を得る。

４日目　所長へのまとめの報告

基礎コースでは，貴重な歴史資料の豊富な島根県の観光をテーマにした訓練コースが提案された。パソコンや簿記を学ぶコースが多くなっている。就職に当たってはコミュニケーション力が重視されることから，身近な地域の良さを題材にしてインターネット調査，観光の仕事をしている職業人からの講話，講話内容をパソコンを使ってさらに調査したり，まとめるなどをチームで取り組むことで，基礎的なパソコンスキルやコミュニケーション力を高めるという内容のコースを提案した。

５日目　基礎コースチーム公開発表

実践コースでは情報系コースの企画に取り組んだ。島根県や松江市では言語開発者の在住地ということもあって，Rubyのプログラミングの普及を進めていることや島根県，松江市，出雲市などが推進しているプログラマなどの情報系企業（ソフトウェア業，情報処理・提供サービス業，インターネット付随サービス業等）の誘致政策を睨んだコース企画に取り組んだ。ヒアリング結果を踏まえて，一般企業の社内SEを目指すコースの提案を行った。

＊Ruby　松江市名誉市民まつもとゆきひろ氏が開発したプログラム言語で松江市が積極的に普及に努めている言語である。

５日目　実践コースチーム公開発表

島根労働局，ジョブカフェしまね，松江ハローワーク，実施機関２社，当センター関係職員等が参加した発表会を開催した。当日の看板設置，誘導など運営もすべてインターンシップ生が担当した。企画内容や苦労した点など来場者から多くの質問を受ける。

５日目　公開発表の風景

島根労働局三村求職者支援室長から講評をいただいた。提案されたコース企画は求職者の方々に利用いただきたい内容となっており，今後のコース設定の参考になる旨の評価をいただいた。

５日目　公開発表会の講評

島根職業訓練支援センター所長とインターンシップ生の座談会を開催した。５日間の振り返りを行う。

５日目　インターンシップ振り返り

当初は緊張していたインターンシップ生であったが，発表会と振り返りを終えたところ。今回の経験を今後の職業選択や就職活動に生かしていただけたら幸いである。

５日目　インターンシップを終えて

5.3　企画の内容紹介

本インターンシップでは基礎コースと実践コースが提案された。提案コースの概要とアイデアについて紹介する。

5.3.1　基礎コースの企画内容

年齢層によっても異なるが，若年者に焦点を当てた場合，パソコンの基本的な内容を学ぶコースは魅力あるコースとは言えないと指摘し，パソコン以外のビジネス能力向上を目指すコース設定が必要と考えている。

そして，次の３点をコース目標とした。

①　集団での仕事を進める
②　店舗をマネジメントできる能力を習得
③　自信をつける

コースの特徴として，考えたのは次の３点。

①　島根県の観光を題材とする
②　店舗マネジメントスキルを養成する演習
③　自信をもって就職活動ができる

受講対象者を自分の適性がわからず，就職に結びついていない若年求職者を対象としたコースである。コース名は「ビジネス能力育成基礎科」としている。

5.3.2　今後に向けた提案

現行（平成25年度）の求職者支援制度では基礎コースを受講して実践コースを受講することができないが，基礎コースで社会人としての基礎力の習得をし，さらに実践コースに進むことができる仕組み

の導入を提案している。コース設定に当たっては基礎コースと実践コースの職業能力基礎講習の重なる部分の調整をし，連続受講を可能とする提案である。この場合の基礎コースの訓練期間を１ヵ月程度にし，実践コースではより専門的な内容にシフトするというものである。これらをパッケージにしたものを「就職準備基礎科」とするという。

5.3.3　実践コースの企画内容

実践コースでは，社内SEの育成を提案している。島根県では中小企業が多く，特定の分野の事務処理のみをする求人より，幅広い分野をカバーする仕事が多数を占めているというヒアリング結果を踏まえ，社内SEの技術を習得しつつ，事務系のスキルを養成するコースを提案している。島根県内では情報関連企業の誘致が行われており，人材の需要も高まっている。一方，求職者にも情報系の仕事に興味を持つ者はいるが，具体的な仕事の印象や希望を持たない人が多数となっていることを踏まえ，次の３点を目標としたコースを提案している。

①　企業内のデータベース管理やWebサイトの管理運用などの情報系スキル
②　文書作成，会計，事務業務の伝達などに必要なインストラクションスキル等の事務スキル
③　ヒアリング，プレゼンテーション，ビジネスマナーなどのコミュニケーションスキル

コースの特徴として，考えたのは次の３点。

①　企業人を講師として招くことで情報系の仕事のイメージを訓練中に理解を深める
②　実際に課題をプログラミングすることで，モチベーションの向上を図る
③　コース実施に当たって採用しようとする企業と連携し，訓練を通じた就職機会を作る

訓練コース名として「IT・事務スキル総合科」を提案している。企業内でITを推進する人材も不足しており，情報系以外の企業の人材ニーズに応えるコースとしている。

5.3.4　コミュニケーション力を磨く

実践コースでは地域でソフトウェアの開発などの情報系の企業誘致が活発であることなどを踏まえ，採用ニーズが期待できるプログラミング技術の習得コースの設定と設定の可能性を探るヒアリングを行った。このなかで，プログラマにはコミュニケーション力を磨くことが重要であるとのことであった。

そのためヒアリングスキルやインストラクションスキルを訓練に加えることを提案している。

6. 提案内容の活用について

6.1　若年者向けのコース設定の必要性

最近の島根県の雇用環境をみると有効求人倍率は５月に1.01倍となり，１倍を超えている。

しかし，求人はパートや派遣など非正規社員の求人が多く（６割以上），正規社員の就職は厳しい状況にある。正社員に限ると求人倍率は0.55倍であり，依然として厳しい採用環境にある。

若年者の減少と高齢化の進展が著しい島根県では，若年者の県内への定着やUIターンといった若年者の人口増に貢献できる対策が注目される。

こうした背景を踏まえると学卒未就職者の地域への定着やUIターンによる県外の人材の確保を企業の誘致政策と連動して人材のマッチング支援をしていくことも有効な施策になると考えられるだろう。

平成25年度の求職者支援訓練のコース設定を見ると（第３四半期まで），基礎コース10コース（主としてパソコンスキルを習得する内容），実践コース10コース（介護系５コース，医療事務系１コース，その他４コース）となっている。

非正規求人が多く，高齢化を支えるためのコース設定ではあるが，若年者が主体的にコースを選択し，受講しようとするコースが不足しているように思われる。

6.2　提案内容の検討

今回のインターンシップではさまざまな工夫が提案されている。主な内容は次のとおりである。

①　基礎コースでより一層，現実に即した基礎的なビジネススキル習得ができるよう，観光などを題材にコミュニケーション力や仕事のマネジメント力を高める

②　基礎コースに社会人基礎力といった基本的なスキル習得をする短期コースを設定し，その後，実践的な内容を習得する

③　実践コースでは可能な限りビジネスパーソンが講師として参画し，人材を見極める場としても活用する

④　中小企業では広範囲の仕事に対応していくことが求められる。社内SEに必要なスキル習得により，業種を問わない就職活動が可能となる

具体的な企画コースは基礎コースの企画書・報告書、実践コースの企画書・報告書のとおりである。

6.3　インターンシップから得たヒント

インターンシップではパソコンによる情報収集や資料作成を短時間に行う内容であったが，参加者全員が分業してパソコンを活用した業務を行っていた。こうした状況を鑑みると少なくとも大学を卒業した学生のパソコンの基礎的スキル習得を目指す職業訓練へのニーズは乏しいと考えられる。

むしろ，ビジネス上の問題や課題解決について，パソコンを活用していかに解決するかや，実際の情報をいかに伝わるように短時間で上手くまとめられるかといった実践的な内容を含むコース設定が必要かもしれない。

6.4　今後の活用について

地元の観光を題材にすることは，地域の良さに気づくことにもなる。観光は年齢を問わず共通の話題として，受け入れられやすいメリットも考えられる。

島根県は出雲大社や宍道湖，玉造温泉，石見銀山，隠岐など多数の観光資源を有しており，扱うテーマも豊富である。求職者支援訓練で職業人講話などでこうした題材を紹介，その魅力を知らない人にどうアピールするか，不足するデータや資料をどう補うかといった内容をチームで検討し，まとめて発表するなどすることで，パソコンの活用力を高めるコースなどが考えられるであろう。

また，実践コースチームが提案している企業人と連携し，職業人講師による，より実践的な内容を学習するカリキュラムも検討できるであろう。

この場合，業界へのこだわりよりも習得できるスキルに注目したコース設定・受講者募集をしていくことも考えられるであろう。

7. 参加した学生の自己評価と声

参加学生には参加初日時点とインターンシップ終了時点での自己評価として，①主体的にまとめる力，②目標に向かってチームで仕事を進める力，③調査結果をまとめ他者にわかりやすく伝える力，の３項目について５段階で評価をし，数値の平均値を算出した。

（参加者の声　抜粋　原文のまま）

・仕事内容だけでなく，仕事を通して自分自身の適性や長所・反省点，やりたいことなどが具体的に分かることができ，その点においてもインターンシップ参加の意味は深いものであったと感じた。

・とにかく初めて体験することが多く働くということについて，新たな考え方を持つことができたので，とても貴重な体験になったと感じる。自分自身の成長につながったようにも思います。

・主体的に考え，まとめることはこれまでもしてきたが，チームで仕事を進める経験はあまりなく今

インターンシップ自己評価表

参加学生初日の自己評価と最終日のレベルの自己評価の平均値を比較

参加者の自己評価の変化（実施前と実施後）	参加者平均		
	当初評価	事後評価	ポイント差
①主体的にまとめる力	2.88	4.13	+1.25
②目標に向かってチームで仕事を進める力	2.50	3.88	+1.38
③調査結果をまとめ他者に分かりやすく伝える力	2.25	3.38	+1.13

評価は数値１（低い）～数値５（高い）で記入

求職者支援訓練コース企画書

コース名	ビジネス能力育成基礎科 ～店舗マネジメントのプロを目指して～	基礎・実践別	基礎・実践
実施期間	3か月	想定職種等	店長、店舗マネージャー
主な対象者	自分の適性がわからず、就職に結びついていない若年求職者		
企画の背景	若者が働く際にイメージしやすい職種であり、若年求職者の興味を引きそうである。 非正規雇用も含め、事務系の求人よりも求人が多い。 題材をしまね観光にすれば、観光資源・施設が多い島根の特色を活かせそうである。		
訓練目標 (仕上がり像)	飲食業、小売業で正社員として店舗マネジメントができる能力を身に付ける 求職者が自分の適性を見っけ、前向きに就職活動に取り組む力をつける 集団のなかでコミュニケーションをとりながら周囲とうまく仕事ができるようにする		
想定される 就職先	小売店、飲食店、ホテル・旅館、ブライダル		
訓練後の 取得できる資格	接客サービスマナー検定2級、3級 簿記3級		
訓練コースの 特徴	島根県（地域）の観光を扱うことで地域に特化した強みが出来る 電話応対、接客など様々なケースを想定し、チームで解決するワークを行う 就職に至るまでの自信を養う（自分の将来像についてイメージを持ってもらう）		
訓練内容　学科	簿記試験対策 接客サービスマナー検定対策：筆記対策（敬語、漢字、ビジネスマナー） 観光英語 島根の観光地や名産のPR（プレゼンテーション練習） ↑情報収集、パワーポイント作成 職業能力基礎演習 ・自己分析 ・時事問題、一般常識 ・就職相談、カウンセリング		
訓練内容　実技	職場体験／インターンシップ 職業人講話：ホテル、旅館、松江城・出雲大社・玉造神社周辺の施設 （内容のプレゼン演習を併せて行う） 基本的なサービスマナーの習得 ビジネス電話対応、お客様への対応の仕方 接客サービスマナー検定対策：シチュエーション（グループワーク） 店舗マネジメントスキル養成演習（グループワークも取り入れる） ・問題解決・人材教育、カウンセリングスキル ・時間管理・経理’ ・シフト作成・情報収集（業界の動向など）		
備考 （実施条件や特別に必要な機材等がある場合）			

平成 25 年 9 月 5 日

調査結果報告書

基礎コース班

1．はじめに

本インターンシップでは求職者支援訓練の課題を基礎コースと実践コースの２班に分かれて改善案を考えており、９月３日に松江市内の４か所でヒアリング調査を行った。以下では私たち基礎コース班の調査結果とそれに基づく仮説を中心にまとめた。

2．概要

労働力として重要な若年者にとって、魅力的かつ即就職に繋がる基礎コースの創造。4つの場所でヒアリングを行った結果、多く見られたものが「企業の選考基準は資格より経験を重視する傾向にある」、「現在は事務のような個人スキルが試される職は求人数が減少してきている」といったものがある。しかし、全国の基礎コース講座を調査してみるとパソコンスキル向上を中心とした個人スキルを向上させる講座がほとんどである。そこで私たちは求人に余裕のある職種に焦点を当て、また個人スキルだけでなく対人スキルを身に着けるコースを提案する。

3．問題意識

○基礎コースの受講者における２０～３０代の割合が減少してきている。
⇒魅力的なコースが必要である。
○就職するにも実務経験の有無で有利不利が決まるため、就職出来ない。
⇒実務経験を求められない職種、求人数の多い職種に重点を置いたコースが必要である。
○求職者支援制度の知名度が低いので、制度を企業に周知する必要がある。

4．調査結果

①インターネット調査結果

・基礎コースの大半をパソコン、簿記を中心としたコースが占めている。

②ヒアリング調査結果

【公益財団法人ふるさと島根定住財団　ジョブカフェしまね】

・若年求職者の志望職種は事務が多い傾向。一方、事務の求人は少ない。
・企業はあくまで資格よりも人物重視である。
・資格取得は自信の向上に繋がるため意義がある。
・就職活動が上手くいかない若年労働者は自分に自信を失っている。

【有限会社くりっく】

（内容面）

・基礎コースでは、職業能力基礎向上に重点を置き、現実的な人材育成を行っている。職務経歴書作成指導等の補助もある。
・雇用保険の適用される職場でなければ就職したと認定されない。
・訓練以外の自宅学習も指導し、文章作成能力や営業職の学習などを行わせている。
・企業が求める人材は、ＰＣスキル以上にコミュニケーション能力、ビジネスマナーなどの人間性を重視している。
・訓練終了後の支援として、定期的に電話をかけ、就職活動のモチベーションを保つようにしている。

（運営面）

・受講者減少が経営に大きく影響する。
・センターとの打ち合わせは十分だが、ハローワークによる積極的な斡旋が無ければ受講生は増えないため、継続は困難になってくる。

【松江公共職業安定所】

（企業状況）

・パソコンスキルを最前線で使える事務業は、求人が飽和状態である。
・企業が中途採用者に求めるものは資格よりも経験を重視している。
・中途採用で実務経験以外の場合は殆ど新卒である。
・中途採用に必要な条件に「〇年以上経験ある方」というのが多い。殆どの場合、そのような経験とは訓練センターで得られる経験とは異なる。また訓練センターの期間は数か月を基本としており、必要期間が足りない。

（求職者支援制度）

・制度をハローワークで初めて知る人が殆ど。
・制度を利用するには相談員の判断が前提である。
・就職意欲はあるが自分の能力に自信がない場合、求人情報の倍率が高い場合などに制度を利用する人が多い。
・20~30 代はパソコンに対するスキルは高いので受講者は少ない。

【島根職業訓練支援センター　就職支援アドバイザー・指導員】

・実務経験と職業訓練経験の格差是正が重要である。
・９割は県内に就職。県外は若者や独身が殆ど。
・島根県のみに情報科がある。ただし、県からの要請前提である。

5．調査結果に基づく仮説

【インターネット調査結果に基づく仮説】

・20～30 代の受講者が少ないというが、パソコン技術を 20 代、30 代は求めていない。
・他の魅力的な講義が必要である。
・企画するコースは資格だけでなく経験の部分も補う必要がある。

【ヒアリング調査結果に基づく仮説】

・事務系の求人が少ないのであれば、ＰＣ講座以外のコースを新設してもいいのではないか。
・求職者の就職率を上げるためには、求人に余裕のある分野の人材を育てることが必要である。
　・結局どの仕事でも対人関係が重要である。
　・就職活動の際には「この人と働きたい」と思える印象を持ってもらえること。
・実際会社の中で周りと良い人間関係を築けること。
・自信を失った若年求職者には、自信をつけて就職活動が出来るようになる訓練コースの創造が必須である。
・次のステップアップのための就職として、まず実務経験を積む必要がある。

6．結論・提案（今後に向けて）

何よりもコミュニケーションスキルの向上の機会を設けることや、就職相談、実施機関などによるアフターフォローなどが重要だ。資格（サービスマナー検定）の習得も目指し、求職者の自信につなげる必要もある。

また実務経験獲得の為、就職してもらう必要がある。求人の多い接客・給仕における技術習得を重点的に行う。また、正規社員になるためにも販売マネージャなどの勉強も盛り込む必要もある。

企画書・報告書

求職者支援訓練コース企画書

コース名	ＩＴ・事務スキル総合科	基礎・実践別	基礎　・　実践（○）
実施期間	５か月	想定職種等	社内ＳＥ、総合事務職、ＯＡ事務職、企業内インストラクター
主な対象者	パソコンで文字入力ができる方。		
企画の背景	島根県では地域振興でシステム開発等の企業誘致や情報産業振興の動きがあり、地元からプログラミングができる若年者を供給することが望まれている。しかし、島根県は中小企業が多く、１つの分野だけでは業種選択は狭まる。そのため幅広い分野への理解があり、業務を効率的に行える能力のある人材の育成が必要となる。		
訓練目標（仕上がり像）	一般企業において、データベース管理や社内ネットワーク整備、ＷＥＢサイトの運営等、パソコン操作作業を主体とした事務部門、さらには社内ＳＥとして活躍できる人材の育成を目指す。 より高度な内容を学習したい方には、企業間との連携を取りながら幅広い産業分野の情報システム部門で活躍できる人材を育成する。エンジニアとしての入り口に立つところまでの知識を習得してもらい、連携企業との間の橋渡し役を担う。		
想定される就職先	情報通信業、その他一般企業		
訓練後の取得できる資格	【任意受験】日商簿記検定、ワープロ検定、表計算検定、データベース検定、 基本情報処理技術者試験（ＩＴパスポートなど）、ホームページ制作能力認定試験		
訓練コースの特徴	企業から講師を招き、事前研修のような訓練を行うことで、よりレベルの高い実践力を身につけることができる。また訓練生のモチベージョンを高めることもできる。 エンジニアを最終的な目標とする方への対策として、訓練コースではエンジニアとしての基礎を学び、連携企業に就職後、教育が円滑に行われることを目指す。 ・各ソフトを実務で通用するレベルまで学習 ・情報系の専門的な知識が身につくことで、分野の広い職業選択が可能 ・コミュニケーション能力向上のため、グループ討議やヒアリング・プレゼンテーション講習、ビジネスマナー講座、職場体験を行う		
訓練内容　学科	コンピューター概論 職業能力基礎講習 安全衛生 ヒアリング講習 ＯＡ活用概論 会計基礎		
訓練内容　実技	文章作成・表計算実習 インストラクター実習 プレゼンテーション実習 会計実習 ＨＴＭＬ＆ＣＳＳ ＷＥＢエンジニア基礎 ＷＥＢプログラミング実習 ＷＥＢ制作実践 データベース 就職支援 職場体験		
備　考（実施条件や特別に必要な機材等がある場合）	【条件】 島根県内の企業と連携（２～３社）し、講師として受講生を訓練していただく。 能力に応じ、その企業への採用を検討してもらう。 【機材】 パソコン		

平成 25 年 9 月 5 日

調査結果報告書

実践コース班

１．はじめに

近年、情報産業は急速な発展を遂げている分野であり、情報系企業の増加だけではなく、社内ネットワーク整備、Web サイトの運営など、一般の企業においても、情報系の技能を持つ人材を必要とする機運が高まっている。

しかし、島根県内において情報系技能を持つ人材が少ない一方で、若年層の県外流出が進んでおり、対策が急がれている。

２．概要

島根県内で活躍できる情報系のスキルを持った人材を育成する求職者支援訓練での実践コースの創設のため、インターネット及びヒアリング調査により島根県内でどのような能力を持った人材が必要かという需要を探る。

３．問題意識

・　島根県内における情報系スキルを持つ人材の不足
・　若年層の県外への流出
・　情報系の職種を希望する若年層の不足
・　島根県内の求職者支援訓練での情報系コースの不足

４．調査結果

①インターネット調査結果

インターネット調査では、全国の求職者支援訓練の情報系コースの中でも、Web クリエイター養成、Java 言語を用いたプログラミング等のコースが多数あった。そのようなコースでは基本的なパソコン操作が出来る人を受講の対象としており、Ｗｅｂクリエイター能力認定試験上級や IT パスポート等の任意受験が出来るコースが多く見受けられた。

②ヒアリング調査結果

・公益財団法人ふるさと島根定住財団　ジョブカフェしまね

企業は、資格よりも実績が重要と考えており、プログラム言語が使用できるかを重視する。一方、情報系の求職者の多くは、以前から専門の勉強をしている人が多いが、新規で情報系職種を目指す求職者は、具体的な志望職種を決めていない人が多い。

・有限会社くりっく

スキルアップや資格取得を通じて自信をつけ、就職に挑戦できることを目的としている。また、グループ討議を積極的に実施しており、コミュニケーション能力を高めることにも重点を置いている。

・松江公共職業安定所

多くの企業が新卒での採用をしており、中途採用の場合は実務経験を必要としている。情報関連企業にとって採用する決め手は経験年数やそれに見合った能力を重視している。

・島根職業訓練支援センター　就職支援アドバイザー・指導員

研修生の特徴として、家庭を持っている 30 代の方、親元で暮らしている 20 代の方が多い。情報処理能力検定等のパソコンの一般的な資格は、2 級までを取得している人が多く、中には 1 級を取得している人もいる。

５．　調査結果に基づく仮説

ヒアリング調査の結果、求職者の中には情報系に興味を持つ人々もいるものの、その多くは情報系職種に漠然とした印象しか抱いていないことが分かった。

情報系企業からの需要は無論、一般企業において企業内のデータベース管理、社内ネットワーク整備や Web サイトの運営等を行えるスキルを持つと共に一般事務作業を行うことのできる、幅広い分野をカバーできる事務職への需要が高いのではないかと思われる。

また、企業側は情報系の技能の他、コミュニケーション能力を高く評価するため、ビジネスマナー講座やヒアリング・プレゼンテーション能力向上を図り、求職者のコミュニケーション能力を高めることが必要である。

６.結論・提案（今後に向けて）

島根県内の情報系企業だけではなく、一般企業でも既にパソコンによるデータの管理、インターネットを用いた業務を行っているところが多い。今後も情報技術が発達するにつれ、情報技術を持った人材を必要とする企業は多くなると予想される。情報系業務を含む事務一般を任せられる人材を求めていると考えられるため、幅広い分野の業務を行うことができ、コミュニケーション能力に長けた人材の養成を目指すコースの創設が望ましいと考えられる。

企画書・報告書

回改めてチームワークの重要性を実感し，またチームで企画を形にできました。

・社会人になるととても学生と環境ががらりと変わるのですごく得るものが多かったです。

・チームをまとめる力，他社の意見を引き出す力などはまだまだ，足りないように感じます。これからはこのような点を意識していこうと考えています。

・個人個人で異なる意見を１つにまとめることに難しさを感じながらもチームで協力できた。

・仕事をしていく中で常に「今，自分は何をすればいいか」ということを考えていたので，インターンシップに対する主体性は高くなったと考える。

・職場体験とは違い，自分たちで考えて行っていく部分が大きく周囲との相談が大切だと思った。また，仕事を任されたと言っても決められた枠組みがあり，仕事というものがどういうものか少し分かった。

以上が参加学生の評価と声である。個別にみても自己評価の数値があがっており，本インターンシップの経験で自分の持ち味に気づき，自信につながっ

たと思われる。感想のコメントも前向きなもので，就職活動の目標を自分なりに考え，改善のための努力を重ねる意欲が感じられ，今後の活躍が大いに期待される。

8．おわりに

求職者支援訓練は第二のセーフティネットとして，期待される制度である。受講対象者が雇用保険の受給ができない求職者となっている。

ただし，平成23年10月から設定された新しい制度ということもあって，一般の認知度が高いとはいえない状況にある。

先行き不透明なビジネス環境のなか，新卒で就職が決まっても早期に離職する若年者も少なくない。職業経験が乏しいまま，簡易な仕事に転職を繰り返すことになると，正社員としての就職は厳しいものとなる。こうした早期離職者が将来活躍できるようにベースとなるビジネススキル習得ができる制度としても求職者支援制度は活用できるのではないだろうか。島根職業訓練支援センターでは本インターンシップ学生の提案内容を生かし，実施コースの充実を図っていくこととしている。

求職者支援訓練のコースの設定に当たっては，採用側と受講者側の双方のニーズを踏まえたコース設定が求められる。

民間教育機関が認定申請をするに当たって，こうした情報提供し，よりニーズに即した有益なコース企画ができるように，支援していくことも今後，求められると考えられる。

雇用保険受給者を受講対象とした職業訓練コースと違って，公共職業安定所への利用が少ないと思われる求職者支援訓練の受講者ニーズに係る情報収集は難しいものとなっている。

インターンシップにより学生への学びの場を提供するとともに若者目線でコース企画を検討することは，今後のコース設定の充実を目指すためには有益な取り組みになると思われる。

最後にインターンシップ実施について協力をいただいた島根労働局三村求職者支援室長，松江公共職業安定所（ハローワーク松江）の塩毛統括職業指導官，公益財団法人ふるさと島根定住財団島田主任，川内様，有限会社くりっくの土江社長，そして本インターンシップ実施に協力いただいた関係者各位にお礼を申し上げます。

＜参考文献＞

⑴　労働政策研究・研修機構　労働政策研究報告書No.141学卒未就職者に対する支援の課題平成24年 3月28日
⑵　労働政策研究・研修機構　調査シリーズNo.97入職初期のキャリア形成と世代間コミュニケーションに関する調査　平成24年 3月30日
⑶　労働政策研究・研修機構　労働政策研究報告書 No.152　平成25年3月25日
⑷　労働政策研究・研修機構　資料シリーズ中小企業における若年者雇用支援施策の利用状況（採用担当者ヒアリング調査報告）No.115　平成25年3月29日
⑸　労働政策研究・研修機構　若年者就職支援機関における就職困難者支援の実態　資料シリーズ No.123 平成25年6月28日
⑹　情報処理推進機構　IT人材白書2013
⑺　情報処理推進機構　中小企業等のIT活用に関する実態調査2011情財第 情財第 604604 号
⑻　労働政策研究・研修機構　非正規就業の実態とその政策課題　JILPT第2期プロジェクト研究シリーズ「非正規社員の能力開発の役割」
⑼　労働政策研究・研修機構　中小企業における人材育成・能力開発　JILPT第2期プロジェクト研究シリーズ「中小企業の募集・採用活動と人材育成・能力開発」
⑽　島根県雇用政策課ホームページ
http://www.pref.shimane.lg.jp/rodoseisaku/
⑾　島根県産業振興課情報産業振興室ホームページ
http://www.pref.shimane.lg.jp/itsangyo/
⑿　しまね統計情報データベース
https://pref.shimane-toukei.jp/
⒀　松江市産業振興課ホームページ
http://www1.city.matsue.shimane.jp/sangyoushinkou/index.html
⒁　Ruby知って試そう（松江市）ホームページ
http://ruby.city.matsue.shimane.jp/
⒂　出雲市企業支援ホームページ
http://www.city.izumo.shimane.jp/www/genre/0000000000000/1293689375541/index.html
⒃　島根職業訓練支援センターホームページ（求職者向け）
http://www3.jeed.or.jp/shimane/poly/kyusyoku/about.html
⒄　島根職業訓練支援センターホームページ（民間教育機関向け）
http://www3.jeed.or.jp/shimane/poly/jigyosyu/about.html

カリキュラム（全体）

開催会場	301

<table>
<tr><td>コース番号</td><td>コ　ー　ス　名</td><td>期　　　間</td><td>定員</td><td>日数</td></tr>
<tr><td></td><td>平成２５年度夏季インターンシップ（求職者支援課）</td><td>公開発表日：平成25年9月6日（金）14時
平成25年9月2日（月）～9月6日（金）</td><td>8</td><td>5</td></tr>
<tr><td>研修のねらい及び到達目標</td><td colspan="4">チームによる企画業務の体験において、ビジネスで求められる次の３つの力を活用する。①主体的に考えまとめる力（考える）②目標に向かってチームで仕事を進める力（行動する）③調査結果をまとめ他者にわかりやすく伝える力（発表する）。経験からの学習を通じ、職業人としての基本的姿勢を習得する。</td></tr>
<tr><td>研修対象者と前提条件</td><td colspan="4">大学、短大、専門学校等に在学する学生（学年は不問）
＊受入期間（５日間）の全日程参加可能な方に限る</td></tr>
<tr><td rowspan="6">インターンシップ内容</td><td colspan="2">項　　　目</td><td>学科</td><td>実技</td></tr>
<tr><td>１．目的と目標（9/2）
（１）インターンシップの目的・オリエンテーション（職場紹介、留意事項等）
（２）自己紹介・参加のねらい等
（３）求職者支援制度説明と目標設定</td><td>＊校内案内、避難経路確認、緊急連絡、情報サービス産業協会ヒアリングデータ等の情報提供、チーム分け</td><td>2</td><td>4</td></tr>
<tr><td>２．計画策定と目標の共有化（9/3）
（１）インターネット調査
（２）グループディスカッション
（３）計画の決定、調査予約</td><td>朝礼
＊、計画の確認。ブロック担当で全国の訓練データの調査・整理</td><td>1</td><td>5</td></tr>
<tr><td>３．計画の実行（9/4）
（１）ヒアリング・インターネット調査
（２）調査データの整理
（３）仮説の設定と中間発表</td><td>＊４つのチームによるヒアリング。①ジョブカフェ②ハローワーク松江③実施機関④当センター内でヒアリング。受講側のニーズ調査、実施機関の課題把握</td><td>1</td><td>5</td></tr>
<tr><td>４．データ分析と論点整理（9/5）
（１）課題の対応案の検討
（２）企画書の作成
（３）発表資料・広報資料の作成</td><td>＊計画を決裁にまとめ、所長決裁を得る。決裁は基礎と実践の２チームに分けて行う。プレゼンテーションの準備と事前演習、資料修正を行う。</td><td>1</td><td>5</td></tr>
<tr><td>５．資料調整、準備、発表、講評　(9/6)
（１）プレゼンテーション資料作成
（２）発表準備・打ち合わせ
（３）発表</td><td>午前中最終確認と演習を行う。１４時から公開発表会を行う。公開発表では当センター、労働局・ハローワーク、ジョブカフェ、訓練実施機関、マスコミ等が参加。</td><td>1
計　6h</td><td>5
計　24h</td></tr>
<tr><td>担当（所属）</td><td colspan="4">島根職業訓練支援センター求職者支援課職員</td></tr>
<tr><td>使用する機器及び教材等</td><td colspan="4">プロジェクター、パワーポイント、自作資料
●予定成果物（調査結果報告書、求職者支援訓練企画書、コース概要説明資料、募集案内チラシ）</td></tr>
</table>